

【学位論文審査の要旨】

<論文審査>

論文題名 Development of a Resilience in Daily Activities Scale (RSAS) of Mothers of Children with Autistic Spectrum Disorder (自閉症スペクトラム障害児をもつ母親の日常生活におけるレジリエンス尺度の開発)

本研究論文では、自閉症スペクトラム障害 (ASD) 児をもつ母親の日常生活におけるレジリエンスを評価するための尺度の開発を行っている。調査はインドネシアで大規模に行われ、最終的に 27 の設問からなる尺度、RSAS を完成させ、その信頼性の検証も行っている。

とくに研究者は、dual-panel 法を用いて尺度項目を選択し、148 名の ASD 児をもつ母親に本尺度を実施している。その結果、本尺度が 5 つの因子で構成され、一定の信頼性を持つことがわかった。

本研究論文には、インドネシア都市部の母親だけに対象が限られているという点で多少の課題はあるものの、本尺度は作業療法領域で利用できるインドネシアではじめてのレジリエンス尺度を開発したものであり、新規性があるとともに、有用性も十分備わっているものと考えられる。

自閉症スペクトラム障害児に関する問題は近年拡大する傾向にあり、とくに母親のレジリエンスを把握する方法を提案している点が高く評価できる。自閉症スペクトラム障害児は周囲の理解を得ることが困難である点など、他の障害と異なる特徴を示しており、こうした尺度は今後わが国でも活用される可能性が高い。

論文審査にあたって次の点で博士の水準を満たすと思われた。

1. 研究目的が明確であり、先行研究が十分検討されている。
2. 十分なサンプルを用いてデータ収集がなされている。
3. 適切な解析手段が選択されている。
4. 結果の解釈が真摯におこなわれ、新規性の高い知見が示されている。
5. 作業療法学の学術的發展に寄与すると思われる。

<審査会>

審査会では、調査対象者の募集方法、なぜ ASD に着目したかなどが議論された。これらに対しては適切に回答することができた。また、インドネシアにおける家族関係のありかたなど、研究背景に関しても有意義な討論を行う事ができた。

審査会において、次の点で学位に相当すると思われた。

1. 質疑応答では、すべての質問に適切に答えられていた。
2. 総合的に、関連した領域の知見について深く理解していると考えられた。
3. クロスカルチャー研究の可能性など、今後の研究に対する意欲が認められた。

博士学位論文審査の要旨

以上のことから、本研究が博士論文に値するとともに、研究者が博士の学位(作業療法学)に相当するものと判断する。